

昭和62年度

和歌山県名匠表彰受賞者

敬称略（五十音順）

和歌山県名匠

おお たに ぜん べ え
大 谷 善兵衛

経歴及び業績

大阪市に生まれ、大谷家に代々伝わる蠟型鑄造技法について、幼少の頃から父親の指導を受ける。昭和23年から現在地に居を移し、これまで50年余りにわたって鑄金に取り組んできた。

蠟型鑄造技法とは、密蝟に松ヤニとパラフィンを混ぜたもので作品の原型を作り、これを真土と呼ばれる粘土で包み、火の中で焼いて蝟を流し出す。この鑄型に溶かした銅と錫の合金を流し込んで、原型と同じ形の作品を造り出すという技法である。

すなわち、一原型一作品というのが蠟型鑄造技法の特徴であり、複雑な形態を鑄造するのに適している。

作品の完成までには永年の経験が必要とするが、なかでも鑄型に溶解した金属を流し込む際は、作品の出来不出来が決定されるため、全神経を集中するという。

作品は花器、水盤、香炉などの小品から、銅像、仏像などの大きなものまで製作している。



職 種 鑄 匠